

家庭科

前田 愛友

1 家庭科の基本的な考え方

現代の中学生は、かつてに比べて家庭環境・社会環境の大きな変化の中で生活している。情報化の進展や家庭の多様化、精神的な不安の増大など、様々な課題を抱える今、学校教育において「家庭科」が果たす役割はますます重要になっている。共働き家庭やひとり親家庭の増加などにより、家庭の形が多様化する一方で、保護者の仕事などの影響から、子供が自分で食事を用意したり、生活を管理したりする場面も増えている。こうした中で、家庭内で家事や生活の基本を学ぶ機会が限られる子供も少なくなく、子供たちにはより早い段階から「自分で生きる力」が求められている。

このように、現代の中学生が置かれている環境はかつてと大きく異なる。学習指導要領では、家庭科を通して自立した生活者としての資質・能力を育成することが重視されており、そこには多様な他者と理解し合い、支え合いながら生きていくための「共生の視点」が深く根付いている。また、情報化や社会構造の変化に対応するために、課題解決的な学習や消費者教育、さらにはSDGsと関連付けた学びが取り入れられ、家庭科は「生活技術を学ぶ教科」から「生き方を考え、よりよい生活を創造する教科」へと進化している。

さらに、小学校家庭科では「日常の生活をよりよくしようとする実践的な態度」を育てることを目標としており、身の回りの家事や生活を自分で行う基礎を学んできている。中学校家庭科では、これを踏まえて、より複雑で多様な生活課題に対して、自ら課題を見いだし、他者と協働しながら解決していく力を育てていくことが求められている。

これからの家庭科においては、教科書の知識を伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの「暮らし」に寄り添い、「選ぶ力」「つなげる力」「生き抜く力」を育てることが重要である。また、共生の視点を大切に、自分の考えをもちながら他者と協働し、共によりよい生活を構築していく態度を育てることが必要である。正解のない時代を生きる中学生にとって、家庭科はまさに「今日の生活を見つめ、明日の生き方を描く」ためのかけがえのない学びの場である。

家庭科でめざす子供の姿	家庭科の授業づくりの特徴
○互いに協力し合い、意見を交わしながら実行・評価・改善を行う中で、生活技術だけではなく、他者とよりよい生活を築くことができる子供	①実生活に直結した課題解決型の学び (→日常生活の中で起こる具体的な問題や課題を扱い、生徒自身が考え、選択し、実践する活動) ②主体的・共同的な学び (→一人ひとりが自分の考えを持ちつつ、グループで話し合い、互いに学び合いながらともに進めていく) ③多様な価値観の尊重と共生の視点 (→様々な背景や考え方を認め合い、多様性を理解しながら共に生きる態度を育てる) ④生活力と社会力のバランス (→衣食住などの生活の基本を身に付けるだけでなく、持続可能な社会づくりに貢献できる視点も取り入れる)

2 研究の目的

本研究の目的は、現代の中学生が直面する家庭環境や社会的背景の変化を踏まえ、家庭科における実践的な学習活動を通じて、「自立した生活者としての資質・能力」及び「共生の視点」をどのように育成できるかを明らかにすることである。

3 研究の方法

身近で具体的な課題を題材にした授業を通じて、生徒が互いに協力し合い、意見を交わしながら実行・評価・改善を行う中で、生活技術だけでなく、他者と共によりよい生活を築いていく力の育成につながる可能性を検討する。